

# 共同の輪を広げ戦争法廃止を！

しまね九条の会 ネットNEWS

2015年12月14日 vol. 41



12月13日、島根大学人の会などが主催する「しまね集會」が松江テルサで開かれ、九条の会をはじめ県内外から600人が参加しました。

集會では、渡辺治さんの講演と、シールズ、庄原の市民運動、鳥取弁護士会元会長から応援メッセージを受け、「戦争法廃止！立憲主義と民主主義を取りもどそう！」という共同が大きく広がっていることを学び、戦争法廃止に向けた新たなたたかいの決起の場となりました。



渡辺治さん（一橋大学名誉教授）

渡辺さんは、記念講演で「戦争法（安全保障関連法）廃止への展望：私たちの反対運動は何を切り拓いたか」と題してお話しされました。安倍政権が強行した戦争法の危険なねらいは何か、戦争法案反対運動が盛り上がった経過と、その運動が安倍政権をどのように追い詰めたか、そして戦争法廃止に向けてどんな闘いをしなければならないか、この3つについて過去の運動の歴史を振り返り、課題も示しながら、力強くお話しされました。会場からは、「なぜ戦争が起きるのか」「安倍政権を支持する人もいるがあきらめないで署名に取り組みたい」「今の憲法は変える必要があるのか」など質問や感想が出されました。終わりに渡辺さんは、「戦争法が通ったからといって憲法は死んだわけではない」と強調し、憲法があることで、日本が自ら戦争に参加することまではできないこと、今の憲法は変えないで生かすことがアジアの平和実現に貢献することだと話しました。戦争法廃止に向けて運動の糧となる講演は大きな励みとなりました。

戦争法廃止へ！3党（民主・共産・社民）合同演説会！ 12月19日  
（土）12:30～13:00  
松江イオン前

◆学問は真実を見極めるためにすること、感性をときずくことの大切さ、勇気を持つこと、などなど。政治の流れを見極めると戦前の状況に似ているのではと思う。知識だけでなく、動き出す勇気が必要ではないか、また情熱も必要か、いろいろ考える集會でした。（MH）◆「平和を守るためには行動しなければ」と思いながら、今まで何もしてませんでした。後悔したくないと思い、この集會に参加しました。平和は勝ち取るものと、恩師の言葉が強く心に残っています。（KN）